

リハビリ通信

体圧分布測定器の紹介

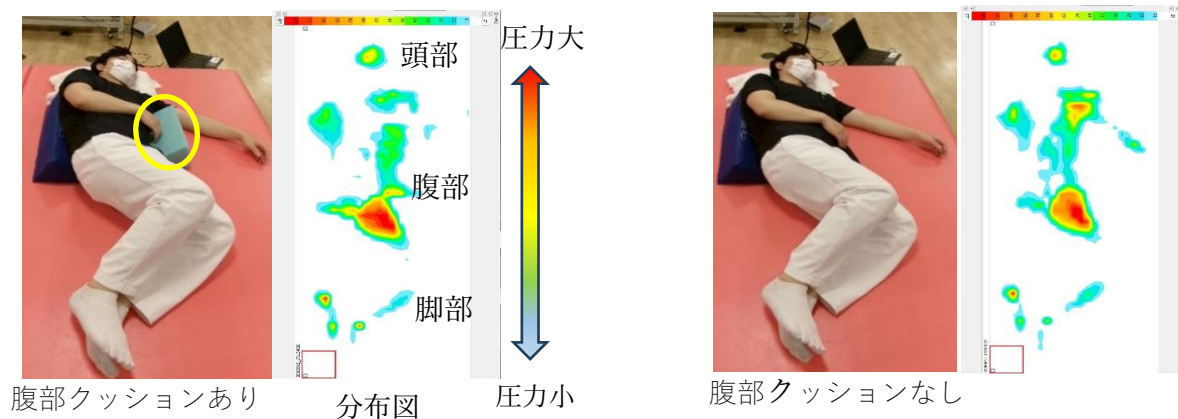
最近では、マットレスのCMなどで目にしたことがある方もいらっしゃるのではないのでしょうか。体圧分布測定器は、シート状のセンサーを体の下に敷き、その部位にどの程度の圧力がかかっているかを色分けされた図で表示する装置です。体圧の状態を視覚的に確認できるため、姿勢の評価や環境調整に役立っています。

リハビリでは主に、利用者の寝具やクッション類を含めた臥位（寝た姿勢）が適切であるかを評価する際に使用しています。特に、自ら姿勢を変えることが難しい方にとっては、姿勢の取り方やクッションの種類・当て方が生活の質（QOL）に大きく影響するため、適切な姿勢を設定することが重要です。

実際の測定場面では、体の变形や拘縮などによって一人ひとり異なる姿勢をとられています。当科で所有している機器は、ほぼシングルベッドサイズの大きさがあり、全身の体圧分布の状態を一度に確認することができ、姿勢評価を行う上で非常に役立っています。また、ベッド上だけでなく、車椅子上での姿勢評価にも活用しています。

この機器の活用方法は姿勢評価だけではなく、リハビリ前後における利用者のリラックス状態の変化を体圧分布から確認したり、移乗時に体へかかる力を視覚化する目的で使用したりもしています。リハ科ではこういった機器を使い科学的な検証をしながら、利用者の身体機能やADL、QOL維持向上に貢献します！

[浅めの左側臥位姿勢の評価例] ＊腹部クッションのありなしでの違いです。わかりますか？



(リハビリテーション科 理学療法士 柴田)